

令和4年度「学校図書館活用推進校事業」報告

新潟市立女池小学校

女池小学校の児童の実態について

○本を読むことが好きな児童が多い。

R2年度貸出冊数は、一人当たり 123.4冊

R3年度貸出冊数は、一人当たり 117.6冊

○読み聞かせを楽しみにしている児童が多い。

▲調べ学習での図書館利用の指導が組織的・計画的ではなく、学年やクラスによって経験が異なる。

図書館教育の目標

進んで学ぶ意欲と豊かな心を育てる学校図書館

・読書の楽しさを味わわせ、進んで読書しようとする気持ちを育てる。

・図書館利用を通して、本や資料の活用の仕方を身に付ける。

・【探究的な学習の視点から】学習等で図書館を利用し、目的に応じて情報を活用し、課題解決を図る力を育てる。

当校における「学校図書館活用推進校事業」の取組

従来の読書センターとしての図書館利用の一層の推進と併せて、司書と連携した授業での実践を通して「学習センター」「情報センター」としての図書館利用の推進をはかる。

1 学習センター、情報センターとしての図書館利用の推進に関して

(1) 学校図書館全体計画の見直し・修正

図書館部で、昨年度までの「学校図書館全体計画」を見直し、修正した。

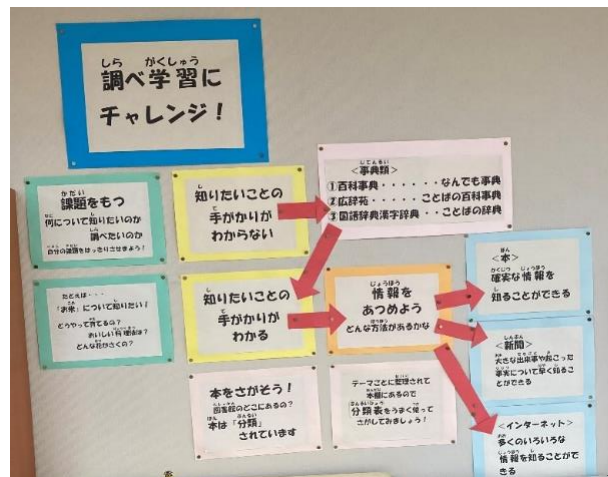
(2) 単元一覧表への記入と学年ごとの年間活用計画の作成

「めいけプラン」の各学年単元指導計画に今年度図書館を活用した学習を赤で記入してもらい、年度末に図書館部の方で修正を行う。SLA(2019/1/1)「情報資源を活用する学びの指導体系表」をもとに学年ごとの年間活用計画を作成した。

(3) 図書館内の環境整備

① 調べ学習のチャート表の掲示

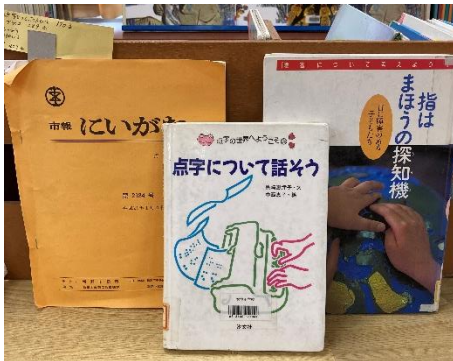
ポプラディア・図鑑の書架の隣の壁面にチャート表を通年掲示し、児童がいつでも利用しやすい環境づくりを行った。



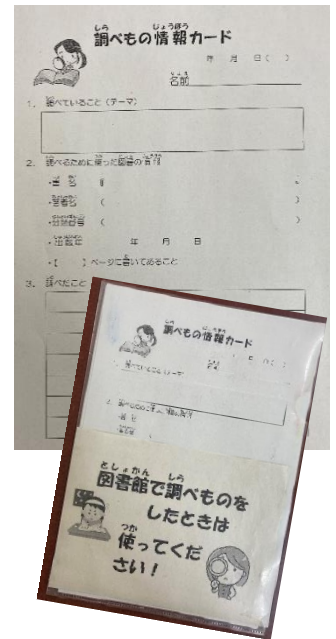
②調べもの情報カードの提示

カウンター上に「調べもの情報カード」を入れたクリアファイルを置き、図書館内で調べ学習を行う際の情報記入用に児童がいつでも利用できるようにした。

③学年の単元に合わせテーマごとにコーナーを設置

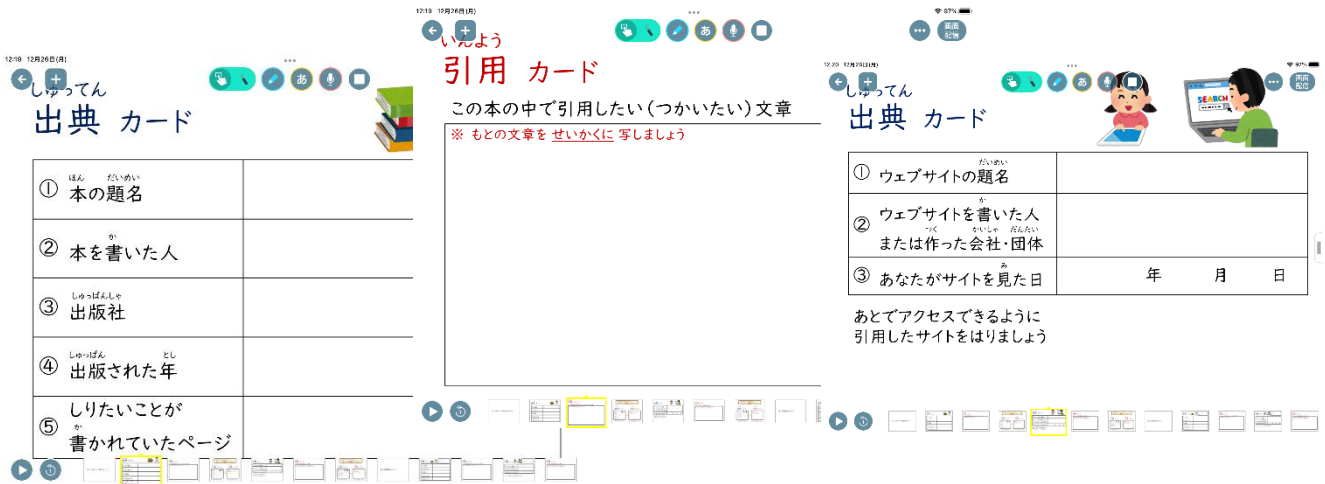


4年生 「点字」「ごみ」



(4) 三校連携の取組としてのタブレットを活用した情報カードの活用

「情報を正しく扱う姿勢を小中で継続して育成するために」鳥屋野中学校，上所小学校との三校連携の取組の一環として，ロイロノートでの「出典カード」「引用カード」を作成し，各校で活用を図ることとした。特に6年生では，中学校への進学を視野に共通の形式を用いることは効果的であると考えた。



(5) 司書と連携した図書館活用の実践

学年ごとに、「学習センター」「情報センター」としての図書館活用の実践に取り組んだ。タブレットの本格的な導入により，児童は簡単に情報を検索できるようになってはいるが，ウェブサイト上の無数にある情報から，信頼でき尚且つ児童が分かりやすい情報をピンポイントで探すことは難しい。新潟市内の学校図書館には，図書資料の活用に関して専門的な知識と経験をもつ司書が配置されている。学年・クラスの児童の実態や学習でつきたい力について相談しながら，学年ごとに司書と連携した図書館を活用した授業を実践した。

以下に抜粋したものを載せる。

1年生 司書と連携した図書館活用授業

教科：国語 せつめいする文しょうをよもう じどう車くらべ じどう車ずかんをつくろう

図書館活用や司書との連携により付けたい力

◎乗り物図鑑を作るために本を選び、乗り物の役割や特徴を自分で見付けて読む力

主な学習の流れ(全12時間)

学習の流れ	図書館活用	司書との連携
六次 紹介したい乗り物の本を選び、本を読んで乗り物の仕事と造りを調べる。本を読んで分かった乗り物の仕事と造りを乗り物図鑑のカードにまとめる。乗り物図鑑のカードを読み合い、感想を伝え合う。	10・11時間目 ・図書室の本から紹介したい乗り物の本を探す。 ・選んだ本から乗り物の仕事と造りを見付ける。	10・11時間目 ・本の探し方について、ポイントを説明する。 ・乗り物の仕事と造りの部分を見付ける際、担任と一緒に支援する。

指導の実際(授業の写真・子どもの成果物・活用資料等)

10時間目

本の探し方について指導

困ったら、司書からアドバイスをもらいます。



◎成果

①情報を活用する力における成果

- ・児童が乗り物図鑑カードで紹介したい本の探し方を分かりやすく指導してもらったことで、自分から進んで探そうとする姿が見られた。分類番号を知り、乗り物の本を見付けることができた。
- ・乗り物の本を見付けられない児童に、図鑑や本を紹介してもらったことで、必要な情報を得ることができた。
- ・乗り物図鑑カードに、本で調べた乗り物の仕事と造りを整理して書くことができた。

②読書への興味、図書館利用の様子等、①以外の成果

- ・国語で自分の読みたい本を探す際、自力で探したり、分からないときは進んで司書に聞いたりする姿が見られた。

2年生 司書と連携した図書館活用授業

教科：生活 うごく うごく わたしのおもちゃ

図書館活用や司書との連携により付けたい力

◎うごくおもちゃにはどんなものがあるのか、さまざまな本や資料から見つける力

主な学習の流れ(全12時間)

学習の流れ	図書館活用	司書との連携
一次 おもちゃの動きを予想して使う材料を選び、安全に配慮しながら、必要な道具を使っておもちゃをつくる。	・おもちゃに必要な材料や道具を用意するために図鑑などを参照する。 ・選んだ本から必要な部分を書き写す。	(この時まで) ・参考図書の準備 ・自分の作りたいおもちゃを見つけれられるよう、担任と一緒に支援する。

指導の実際(授業の写真・子どもの成果物・活用資料等)



たくさんある資料の中から、自分たちが作りたいおもちゃについて相談している。

材料や作り方を変えることで、おもちゃの動き方が変わることに関心し、改良を重ねていた。

- ◎成果
- ①情報を活用する力における成果
- ・おもちゃの製作に必要な情報を収集・選択し、活用することができた。
 - ・身近にある本から情報を得ることにより、活動意欲を高めることができた。
- ②読書への興味、図書館利用の様子等、①以外の成果
- ・本や資料を用意することで、遊びを楽しむだけでなく自分で本や資料を読んだり、絵を見ながら遊び方を知ったりするなど、児童が主体的に取り組むことができた。
 - ・自ら本を手に取り、遊び方を調べる児童や、友達同士で教えあう様子が見られた。
 - ・図書館には、物語や絵本だけでなく、図鑑・制作のための資料・辞典などがたくさんあることに気付いた。
 - ・国語だけでなく、他の教科の学習にも日常的に利用できるということが分かった。

3年生 司書と連携した図書館活用授業

教科：国語 **すがたをかえる大豆 食べ物のひみつを教えます**

図書館活用や司書との連携により付けたい力

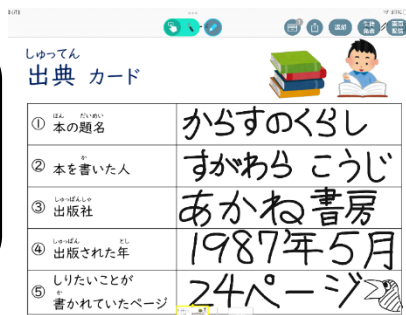
◎知りたいことを調べるためにさまざまな本や資料を選び、必要な部分を自分で見付け読む力

主な学習の流れ(全15時間)

学習の流れ	図書館活用	司書との連携
<p>三次</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食材を決めて調べること決め、本や資料を読んで情報を集める。 ・集めた情報を引用したりながら、文章にまとめる。 ・完成した文章を読み合い、感想を交流する。 	<p>8・9・10時間目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館の本から自分のテーマに合う本を探す。 ・選んだ本から必要な部分を見付ける。 	<p>8・9時間目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・奥付や索引、目次の使い方を説明する。 ・自分のテーマに必要な部分を見付ける際、担任と一緒に支援する。

指導の実際(授業の写真・子どもの成果物・活用資料等)

8時間目
児童は、三校連携で作成したロイロノートの出典カードに記入しながら、奥付の情報の確認のしかたを学習した。



9時間目
司書と担任であらかじめ選書しておいた本の中から自分のテーマに合う本を探す。途中で分からないことがあると司書や担任に聞く姿が見られた。



◎成果

①情報を活用する力における成果

・資料を探すときのポイント(分類、題名、目次、索引の見方等)を指導してもらい、自分に必要な資料を探す方法を知ることができた。また、担任と一緒にアドバイスをしてもらったことで、多くの児童を支援することができた。

・奥付の見方について、出典カードに調べた情報を整理して記録することができた。ロイロノートの出典カードを活用したことで、今後の調べ学習でもポートフォリオとして生かすことができると感じた。

②読書への興味、図書館利用の様子等、①以外の成果

・他教科等、自分の興味をもったことが書かれた本を探す際、自力で探すとともに、分からないときは、進んで司書に聞く姿が見られた。

4年生 司書と連携した図書館活用授業

教科：国語 単元名 伝統工芸のよさを伝えよう～「世界にほこる和紙」～

図書館活用や司書との連携により付けたい力

◎調べたいことについて書かれている本や資料を選び、目次や索引を活用し、キーワードをもとに情報を集める力

主な学習の流れ(全16時間)

学習の流れ	図書館活用	司書との連携
3 興味のある伝統工芸について、くわしく調べ、その「よさ」を中心に情報を集める。	7・8・9時間 ・自分のテーマに合う本を探す。 ・選んだ本から必要な情報を探す。 ・百科事典での調べ方について知る。	7・8時間 ・オレンジBOXの準備 ・児童が調べる際に担任とともに支援する。 ・索引、目次の復習をする。 ・「見出し語」「柱」「つめ」について説明する。

指導の実際(授業の写真・子どもの成果物・活用資料等)

7時間目

伝統工芸に関する書籍や図鑑を使って、定義を下調べする。

7・8・9時間目

司書にアドバイスをもらい、調べたいことに合わせて本を選び記録をとる。



◎成果

①情報を活用する力における成果

・司書から「調べ学習の基礎の基礎」や「ポプラディア」を使って、引用や奥付、索引の活用の仕方について復習をもらったことで、調べ学習のスキルの定着につながった。

・オレンジBOXを活用することで、一人一人のテーマに合わせて、多様な資料を用意することができた。

②読書への興味、図書館利用の様子等、①以外の成果

・司書が児童と図書館にある資料と一緒に探したり、相談にのったりすることで、一人一人の調べ学習に対応した細やかな対応ができた。

6年生 司書と連携した図書館活用授業

教科：国語 『鳥獣戯画』を読む 日本文化を発信しよう

図書館活用や司書との連携により付けたい力

◎自分が調べたいテーマについて書かれた本や資料を選び、必要な情報を見つけて活用する力

主な学習の流れ(全11時間)

学習の流れ	図書館活用	司書との連携
一次 「『鳥獣戯画』を読む」の表現の工夫を考え、日本文化についてまとめる学習の見通しをもつ。		・学習の見通しと必要な図書について打ち合わせを行う。 ・日本の伝統工芸や文化についての本をあらかじめピックアップして箱にまとめておく。
三次 著作権への理解を深め、学校図書館などで日本文化についての本を探し、表現の工夫に着目して読む。	・ピックアップされた本の中から、自分が調べたいテーマについて書かれた本を探す。 (5・6時間目)	・自分が調べたいテーマについて書かれた本を探す際、担任と一緒に支援する。 (5・6時間目)

指導の実際(授業の写真・子どもの成果物・活用資料等)

5時間目

司書があらかじめピックアップした本の中から発信したい日本文化を決めたり、決めたテーマをさらに詳しく調べるために司書に質問をしながら本を探したりした。



6時間目

著作権について学び、奥付や表紙などを見ながら参考にした本について「出典カード」に記録した。

◎成果

①情報を活用する力における成果

- ・著作権について学び、「出典カード」に記録することができるようになった。奥付の見方が分かり、出典カードに記録を残すようになったことで、本を手にした際に奥付を確認する習慣が身に付いてきた。
- ・司書に何度か相談しているうちに、自分の調べたい本が何類の棚にありそうか、少しずつ見当が付けられるようになってきた。

②読書への興味、図書館利用の様子等、①以外の成果

- ・発信したい日本文化について、一つの本だけではなく、司書に相談しながら何冊か探して比較し、より自分が書きたい内容に合った本を探そうとする姿が見られた。
- ・図書室と教室がすぐ近くにあるため、探したい内容や気になることがあった際、すぐに図書室を訪れて本を探したり、司書に相談したりしていた。

さらに、ICTを活用した読書活動の実践を通して、これからの図書館利用について示唆に富んだ実践を行う学年もあった。

5年生 司書と連携した図書館活用授業

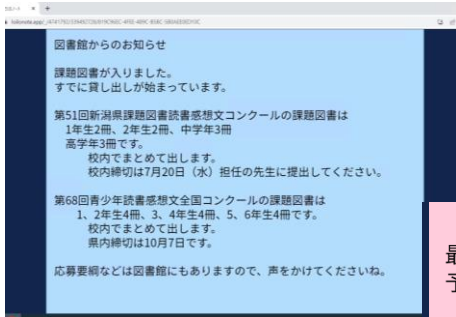
教科：国語 この本、おすすめします

① 図書館司書との関わり

ロイロノートに「図書館」という教室を設定し、児童に参加させる。

司書が作成したカードを、児童に送付し、児童が閲覧し、図書館への興味関心を高めさせる。

児童は、司書に図書についてのカードを送り、司書が、学級図書館の利用時に返答することを繰り返し、司書との関わりの中から、図書への興味関心を高めさせる。



課題図書入庫のお知らせ

最近、図書館で思うことは
予約がほしいなおもいました。



新聞記事と関連図書の紹介

最近、図書館で思うこと

自分が伝記や、小説などを読むようになったことを不思議に思っています。こうなったのも図書館がいっぱいおもしろい本を教えてくれたのがきっかけです。
前までは週1しか行ってなかったのが週に3、4回行くようになりました。図書館のおかげだと思っています

・色々な本があっていつも本を借りるとき、迷っています！
・色々な本が追加されたりしていて、いつも楽しませてもらっています！
・同じシリーズの本も、貸出できるようにしてほしいです！

児童の司書へ送付したカード 感想や要望などがある

② 児童による本の紹介活動

これまで、本単元では、このように冊子にして図書館に掲示し、全校児童に利用してもらった。今年度は、昨年度のものを、年間を通じて掲示した。休み時間に児童が手に取り、貸出の参考にした。1年が経つと、丁寧に扱っていても、ボロボロになるぐらい利用されていた。ラミネート加工するなどの方法も考えられるが、全児童分となると、経費がかさんでしまう。そこで、学習用端末を利用した紹介活動を、年間を通して計画した。

以下は、ロイロノートを利用した一例である。

- ① 夏休み前に借りた本を記録する。
- ② 記録をもとに紹介する。
- ③ 「提出箱」に提出させ、「回答共有する」「わたしも読んだことがある」「〇〇がいいよね」などと本について語り合う姿が見られた。
- ④ 学級児童全員で閲覧し、夏休み明けの貸出の参考にする。
- ⑤ 担任が点検して、児童に返却する。



夏休み前 読書の様子
冊数 31

夏休みに借りた書名

物語で楽しむ歴史が変わったあの瞬間
詩のランドセル
気をつけよう！情報モラル4
聞いてみよう障害ってなに？
池上彰さんと学ぶみんなのメディアリテラシー

今年の夏休み読書

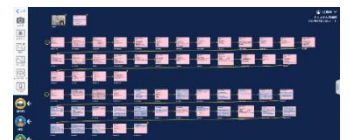
- ・夏休み中は1日10分読みました
- ・好きな本は、池上彰さんと学ぶメディアリテラシーという本です。ネットのモラルを教えてください。
- ・そして今年は小説にもチャレンジしてみました。元々歴史の本が好きなのもあり、歴史の小説を読みました。難しかったけど、慣れたら面白いし、スラスラ読めるようになりました。来年は、もっと小説を読みたいと思いました。

3 読書センターとしての図書館の推進に関して（抜粋）

(1) 外部との連携

① 読み聞かせボランティアの活用

当校では、保護者や地域の方からなる読み聞かせボランティアの取組が継続して行われている。地域コーディネーターや司書が中心となって連絡を取り合いながら活動を行っている。コロナ禍にあって一時は休止を余儀なくされたが、今年度は年間2回の読書週間でそれぞれで全クラスに読み聞かせを行った。年間の活動前と後で方針を確認したり研修や反省を行ったりと、児童のためにより良い活動ができるよう取り組んでくださっている。また、昨年度は、年度末の蔵書点検の際にもボランティアとして活動してくださるなど児童にとってだけでなく、図書館部にとっても心強いサポーターとなっている。

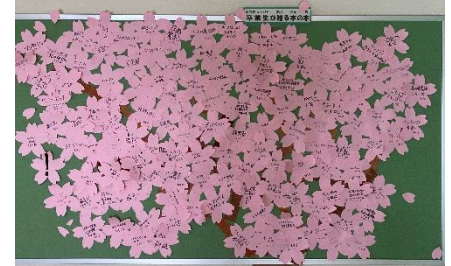


②アニメーションの実施

読み聞かせボランティアの活動の他にも当校では以前から「新潟アニメーション研究会」の方にご協力をいただきながら読書週間中にアニメーションを行ってきた。①同様、コロナ禍の中、2年間の休止を挟み、今年度は感染対策に一層の注意をはらいながら行うことができた。学年の児童の実態や発達段階に応じて、担任と相談しながら選書を行い当日は児童が楽しそうに本に親しむ姿が見られ、職員にも好評であった。今後も継続したいと考えている。

③「うちどく」のすすめ

読書センターとしての推進に関する三校連携の取組の一環として、各校の図書委員会が作成した「うちどく」ポスターを共有した。当校でも鳥屋野中学校が作成したポスターを当校の図書委員会が作成したポスターと合わせて掲示した。



(2) 図書館の環境整備

①卒業生がすすめる本の木

図書館前廊下には、昨年度の卒業生がすすめる本が書かれた桜の花が貼られた木が掲示してある。一人一人が在校生への贈り物として、おすすめの本を残していく。

②季節や話題に合わせたコーナー展示

図書館に来館した児童が興味を持って手に取ることができるよう、季節や話題、行事などに合わせたタイムリーな本を並べたコーナーを作り、展示した。

4 取組を振り返って

今年度は、「学習センター」「情報センター」としての機能を推進すべく図書を活用し司書と連携した実践を行った。職員が図書館を身近なものとしてとらえ、授業に役立つものとして活用する場面が増えるとともに、ICTを導入した図書館教育の可能性について示唆に富んだ実践が得られた。

また、児童にとっても、図書館が読書のための場所だけでなく自分の知りたいことを調べる場所としても活用できること、その際の効率的で正しい調べ方を学習し知ることができた。さらに、タブレットを使いウェブサイトの情報を活用することの利便性と合わせて、図書資料や司書を活用することで、学年の発達段階に応じた専門的で分かりやすい情報が得られることについてもより一層実感できたのではないかと。

今後は、各学年の実践の共有化、学年ごとの活用計画の修正等、職員の意識を一層高め指導がしやすい環境を整備することを目指すとともに、ICTを生かした図書館教育の在り方についてICT担当と連携しながら、児童のスキルの定着や読書の質の向上を目指して推進していきたい。